

法

112

中央鐵道に對する意見  
(追論)

301140-000-3

法-112

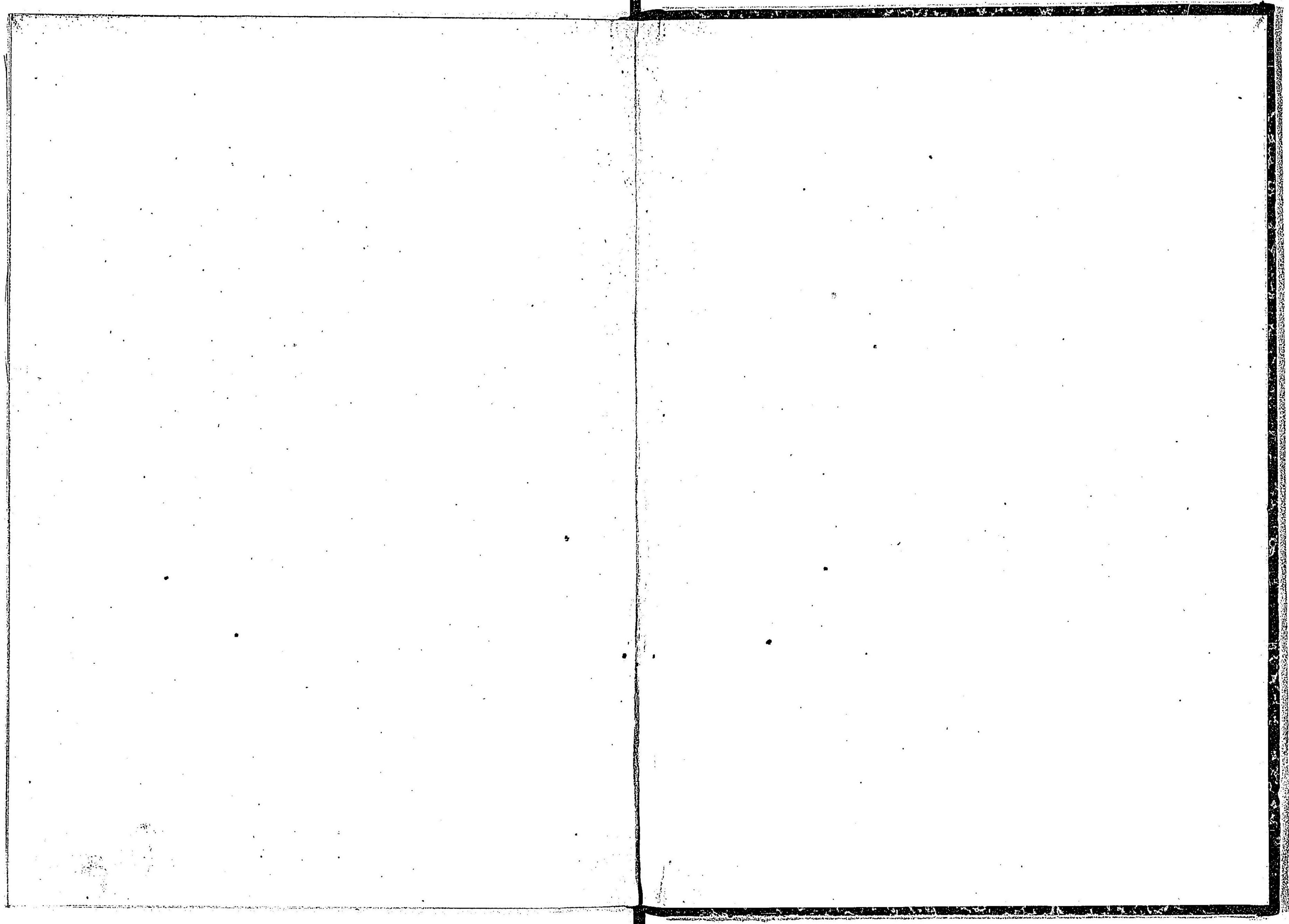
中央鐵道に對する意見(追論)

野口 吉十郎 / 述

M27.4

CDF-0029





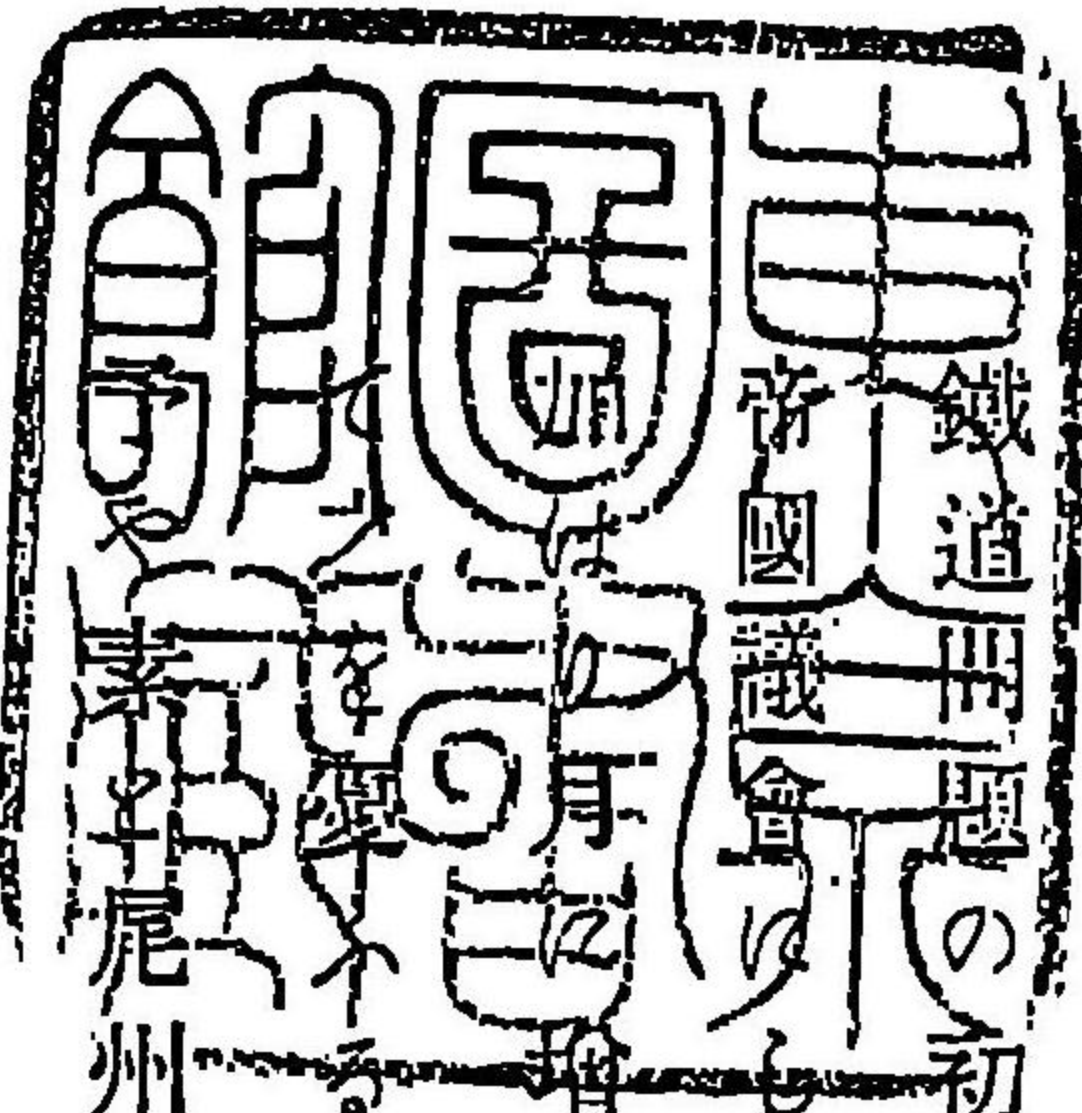
# 中央鐵道に對する意見(追論)

尾張國熱田町

野口吉十郎述



## 第一章 緒言



鐵道問題の初て社會に紹介せられたるは明治二十四年に於ける第二帝國議會にして爾來歲を閱する茲に四其間之を論し之を説く者日に殆んど究竟する無りらんとす蓋し是れ國家の憂に先

者忠誠愛國の士當さに斯の如くなるべきなり  
未だ曾て政論場裡に馳驅したることなく亦敢て國家の經綸を有する者に非らざと雖も一片國家を思ふの丹心は勃々として禁する能はず  
悵然として常に國論の日に非なるを慨す是を以て憂者第四帝國議會の開會となり鐵道問題の其議に上らんとするに當てや自から其力を

三  
惴らず聊か『中央鐵道に對する意見』と題して之を世に公にしたりき思ふに亦諸公の劉覽を辱ふしたるを信すサレバ今の時に當り再び此問題に向つて嘴を挿むの要無きか如しと雖も然れども第四議會に於ては比較線の測量不完全なるの故を以て次期の議會に延期せられたるものから政府は再び技師を特命して有らゆる比較線の精査を遂げしめ各地方の有志も亦相當の技師を聘して之を調査し議會の議員も亦自から之を踏査するに至りて線路の形勢の如きも稍昔日に異なるものあり且つ予か前に陳へたる所のものは主として其硬概を説述したるに過ぎざるものなれば乃ち茲に其足らざるを補ひ以て大に其論旨を確め併せて其新線路と稱するもの及聯絡線等に對する卑見の在る所を開陳せんと欲するか故に敢て再び本論を序する所以にして亦唯一片國家を思ふの衷情なるのみ

政府及鐵道會議か中央鐵道に對するの意見は幸に第四議會の報告に

依て是を知るを得たり其甲武線を延長して八王子より甲府及諏訪を経て西筑摩より名古屋に至るの線路を以て中央幹線と爲したること  
は能く予か意見に合するものにして其調査の精到なると着眼の警拔  
なるとは密かに予の歎美する所なりとす故を以て若し他線の調査に  
して粗笨失計のある無くんば中央鐵道は正しく第四議會に於て決定  
せらるべかりしなりヨシ他線の調査は粗笨失計の在る有りしにもせ  
よ其れが爲に尤も急設を要すへき中央鐵道の決定を延期せるに至て  
は予の甚た憾とする所なりとす然り而して中央鐵道は一の罪科を認  
むる無くして空しく他線の爲に次期の議會に迄延期せらるゝの已む  
を得ざるに至れり

爾後政府議員及び各地方の有志は一意熱心に之か調査に怠り無かり  
き故を以て是れ等の調査は必ず第五議會に依て報告せらるへきを  
期したり然るに第五議會は彼の如くにして啻に其報告を得ざりし

みならず再び本期の議會に迄延期せらるゝに至れり國家先憂の志士たる者誰か憤慨せざらんや  
 然るに今や本期議會は召集せられ鐵道問題も亦其議に上らんとするに會す予豈に黙々たるを得んや然りと雖も予は敢て奇論妙説を臚列して以て諸公を銜はんとするものにあらず其觀察や即ち國家的なり其所信や即ち悉く實際の經歷なり是か故に予か所信は再思熟慮未だ曾て其當初に渝ること無く依然として木曾線の良好なるを認むるものなり本論序述する所の如きは唯其然る所以を細説して以て暴論憶説を排除し着實なる正論をして光輝あらしめんとするに過ぎず若し夫れ幾分諸公の参考に資するあり永遠なる國家の大計を誤る無きを得ば蓋し予の本懐なるのみ乞ふ先づ予をして其所信を細説する所あらしめよ

## 第二章 幹線に對する追論

鐵道敷設に當りて豫め攻究を要すべきもの甚た多し然れども軍事上及經濟上の二點は其最も重しとする所なりとす故に予は曩者其卑見を發表するに當りても亦此二點に就て觀察を試みたりき而して予は固より絶對的木曾線論者なるを以て軍事上より觀察するも將た又經濟上より觀察するも木曾線は實に中央幹線として最好適の性格を有することを説述したりき然るに今や世人の多くも亦木曾線を以て軍事上唯一の幹線なることを認むるに至り反對の位地に立てる伊那線論者すら尙ほ且つ此點に向つては數歩を木曾線に譲るものゝ如し是れ陰雲如何に之を蔽はんと欲すと雖とも正理の明光は竟に之を排除するものにして予は實に國家の爲め其傾向を喜はずんはあらざるなり

世論既に木曾線を以て軍事上唯一の幹線なるを認む故を以て予は敢て此點に對する再説をは試みざるべし然れども其經濟上に於ける木

會線の觀察に至りては未だ世論の一定せざるものあり故に本論は専ら經濟上に於ける木曾線に對して詳説する所あらんと欲す

### 一、木曾地方の財源

凡そ鐵道の經濟を支配するものは其敷設地自然の形勢及其財源の多寡にありとす故に若し其形勢にして宜しきあり財源の豊富なる地方あらんか進んで其敷設を促がさざるべらず然れども若し其財源にして豊富ならず形勢にして非なるものあらんか到底是れ鐵道を敷設すへきの地にあらざるなり木曾伊那兩比較線に於ける財源は果して如何之を確むるは即ち予輩の義務にあらずや

#### イ、其現在

木曾の事世人に誤解せらるゝや久し曰く、木曾は山間の僻地にして冬は積雪の爲めに埋もれ夏は僅に詩人雅客の曳杖地たるに過ぎず曰く、耕すに一の良田無く又何等の特産無しとア、是れ實に木曾を誣ふる

の甚しきものにして苟くも一度木曾の地を踏み木曾の實情を究めたるん者は決して斯の如き荒唐無稽なる暴論憶説を信するもの無しと雖も間々斯の如き暴論憶説を信して以て木曾線排斥の主論と爲す者あるに當りては如何ぞ其蒙を啓く所なかるへけんや  
蓋し木曾の地たる山間の僻地なるに相違無し又決して峻路峻坂無しと言はず然れども其所謂木曾と稱する一帶の地方は木曾川の流域に依て其土を開けり故に其産物亦實に尠なからず單に現在の分のみを擧ぐるも尙ほ且製絲の如き養蠶の如き將た又産馬の如き各種の特有産物を有し常に他に向つて之を供給しつゝあるなり然り而して此等各種の産物は常に外に供給して餘ありと雖も之を伊那地方の産額に比するに於ては或は一籌を輸するものあるべし併し乍ら斯の如きは單に木曾地方の副産とも稱すべきものにして其主産は實に此他に於て存することを知らざるべからず之を何とか爲す曰く、是れ即ち彼が

天與の財源たる材木なりとす。抑も木曾の森林たる鬱蒼として四面に連亘し其反別實に四十餘万町歩の多きに及びり然り而して年々之より伐採する所の材木は尺(一尺角二間とす)凡そ十萬本内外(此他小白木等に至りては其産額舉て數ふべからず)にして其産する所の樹木の種類は古より木曾の五木と稱する檜、楨、榎、樺及榎を主として其他種々の材木を出し其材質の良好なる其産額の巨額ある實に宇内に冠たるものあり。木曾地方の生産力に富めること現在既に斯の如し故に若し一朝鐵道の開通するあり交通の便を與ふるあらんか彼か生産力は決して今日の現況に止まらざるべし而して彼は全然其僻地たるの稱號をは脱却するを得て新なる木曾は乃ち茲に形造らるゝに至らんなり。

### 只、其將來

爰に木曾地方財源の將來を論ぎと云ふと雖も予は決して或る一種の

政論家の如く徒らに架空虚構の暴説を逞ふして以て一時の快を貪らんと欲するものにあらず予は唯自身の經歷上より信憑し得べき範圍内に於て最も着實なる判断を下さんことを期するものなり。木曾山林より出す所の用材及薪炭材の殆んど無盡藏なることは既に之を陳べたるが如し或る林學者は説て曰く若し一朝鐵道の便を與ふるあらんか少なくとも毎年の産出高は用材(尺)百三十餘萬本、薪炭材二十五萬九千餘本を得るに於て難からざるなりと實際に於て果して能く以上の如き大量を産出し得べきや否やは容易に速断を下し得べきにあらずと雖も其含蓄する所の財源の夥しき巨額にありと云へることは此一推断に依て是を見るも以て其一斑を知り得べきなり然るに翻て現在の産出高を觀察すれば僅々拾萬本内外の用材に止まり以上の十分の一にも上らず薪炭材に至りては唯空しく腐朽に屬するの有様なり是れ實に天與の大産を空ふするものにして必竟交通の不便

なるか爲に多くの日子と運搬費を要するの致す所たらずんばあらず  
予か一昨年に於ける意見書は實に此點に就て左の如く言へり曰く

……………一旦鐵道の開通するに至れば更に幾萬本の増截を見るに至るべし然り而して此伐採せる所の材木は悉く之を木曾川に投入して熱田港に着せしむるを以て常則と爲す而して此川流しにする費用は一本に付五十錢乃至六十錢にして更らに之を東京若くは大坂に運搬するに於てハ殆んど一圓四五十錢を費さるべからず然るに鐵道の開通するに至れば木曾川より熱田に致すの費用を以て直に東京若くは大坂に運搬するを得可し今之を十萬本に積算すれば實に十萬圓の利益ありとす云々

又曰く

然のみならず川流しは平均一割以上の流失木及傷木ありとす而して此一割なる算用ハ寔に内輪の算用にして年によりては大水の汎濫あるか爲め三割四割の流失を見ることあり(中略)今假りに一本の代價を五圓と爲し流失木の總價格を積算すれば實に五萬圓乃至十萬圓の巨額なりとす今鐵道によりて之を活用するに於てハ彼れ此れ十萬

圓乃至二十萬圓の上に出づべし豈に驚く可きの利益にわらずや云々

是れ實に予か經歷上に於ける打算なりとす然れども一朝若し鐵道の經過を見るあらんか不生産的消耗を變じて生産的有用の事に充つるを得へく材木の價を下落せしむると共に他方に於ては其伐採の量を増し愈々其供給を増加するに至らんなり苟くも國家の經濟に眼を注ぐ者豈に之を等閑に附し去るへけんや

議者或は曰く木曾地方の材木及一般産業の充分に見込ありと云ふものは即ち其將來の事のみ國家目前の須要は決して遅々たる産業の發達を俟つ可きにあらず然るに伊那地方の産業は今日に於て既に充分の發達を爲し遙かに木曾地方の上に出たり今是を措て故らに彼を採るは決して鐵道敷設の目的を得たるものにあらざるなりとア、何ぞ其國有鐵道本來の目的を誤るの甚しきや抑も國有鐵道に於て採るべきの方針は決して眼前の小利に汲々たるにあらずして實に國家永



遠の大策を講ずるに在り是れ近年歐米諸邦に於て専ら私有鐵道の鐵道經濟上に利あるを認むるに拘らず獨り獨逸に於ては國有鐵道を主張して大に其効果を收め卓然として諸邦に超出せる所以にあらずや若しも鐵道の目的にして眼前の私利私益を貪るにありと云はし即ち已む苟くも現在の軍事經濟の兩全を期すると同時に將來に於ける國家の大計を策するに在らんには豈に區々たる眼前の小利害にのみ關す可けんや

### 一一 沿道に於ける木曾線の利用

國家的鐵道としての中央幹線は木曾線を探らさるへからさること前既に陳ふるが如し然り而して其敷設に隨伴し來る所の沿道に於ける鐵道利用の點に至りても亦木曾線の遙かに伊那線に勝るものあり何をか其利用と云ふ曰く

#### イ、木曾線は水、火、震災等不測の災危に際して迅速

に之を救助し得る事

ロ、伊那線は僅かに伊那の一部に便益を與ふるに過ぎされども木曾線は實に東西筑摩南、北安曇の四郡に向ふて其利便を與ふる事

是れ即ち木曾線の利用なり彼の震災及水、火災の如きは固より何人とも之を希望する者はあらず然れども人事は不常なり天災は測るべからず故に豫め是等不測の災危に應ずるの策を講ずるは亦豈に吾人の努むべきことにあらずや然り而して之を既往の經歷に徴するに是等不測の災危は必ずや五年乃至十年にして一回の襲來あらざるは無く特に水災の如きは近く數年の間に之を見るも實に連年免れざるが如し吾人生民の不幸夫れ果して幾何許ぞや然れども開明日進の今日に當りて徒らに其不幸を歎ずるか如きは是れ必竟愚者の事のみ日進の國民たるもの豈に豫め之か防衛の方法を講じて萬一に備ふるの覺

悟無かるべけんや

然り而して是等災厄の襲來する毎に常に多くの需要を感じるものは材木なりとす曰く某の地に大火あり材價三割を増す曰く某の地に水害あり材價二割を高めたりと是れ予輩當業者の天災地變を聞く毎に必ず耳にする所にして斯る際に乘して其材價を高めんことは切に忍びざる所なりと雖も需給の關係は亦如何ともする能はざるものあり是か故に予は當業者の本分として是等不測の災害あるに當てや常に奮て新材伐採の事に努むと雖も如何せん産材の地は一般に交通不便にして其輸送は總て川流しに依らざる可からざるが故に之を伐採して需要の地に致さんには少くとも一年の日子を要し時としては殆んど二年の長日月を費すこと無きを保せず然かのみならず其一割乃至三割は空しく流水又は激潮の爲に流失せらる事情斯の如きを以ての故に需要の聲に應じて直に其急に處する能はず材價は日に昂騰し災

民は益々悲歎に哽はんとなす彼の明治二十四年尾濃地方の大震災に當りてや御料局は其災厄に應せんか爲め逸早くも飛彈及び木曾山林の拂下を爲したりと雖も其期間の甚しく延引せると運搬費用の多額なりしとは折角の拂下けをして格別の効果を奏し得さらしめしにあらすや以て其一斑を知るべきなり

夫れ然り是か故に一朝斯の如きの災厄あるに當りて能く其急に處せんと欲せば是非共是等材木の主産地に向つて交通の便を開かざるべからず今夫れ中央鐵道をして木曾の地を通過せしむると爲さんか管に材價をして大に下落せしむるのみならず其伐採せる材木は遠隔の地方と雖も僅々十數日を出でずして急速之か需に應せしむるを得へけんなり是れ豈に人事問題として又經濟問題として一顧の値無しとせんや

且つ夫れ伊那線なるものは管に右の如き便益を得る能はざるのみな

らす是に依て以て利便を感じるの地は實に僅かに下伊那の一部、即ち飯田地方一帯の部分に過ぎざるにあらずや伊那線論者は言説すらく伊那線なるものは諏訪及上、下伊那の如き製絲業の隆盛なる地方を経過するか故に是等沿道の利便は實に大なるものあるべしと、然れども是れ慮はざるの甚しきものなりと云ふべし何となれば木曾線は甲府より諏訪に出で上伊那郡の辰野を掠めて東筑摩に入るものなるか故に論者の本據として言説する所の諏訪、伊那二郡の如きは木曾線に依て以て充分に其利便を得べきものなればなり然かのみならず木曾線にありては諏訪、伊那二郡の外東、西筑摩南、北安曇の四郡即ち世に所謂松本平と稱する一帯を沿道とするか故に松本、淺間、鹽尻及南、北安曇郡の如き養蠶製絲の盛大なる地方に向つて充分なる利便を與ふるものあるに於てをや之を如何んぞ沿道に利無しと云ふを得べき沿道を利するは伊那線に非らずして寧ろ木曾線にありと云へることは炳々乎

として疑ふべきにあらざるなり

### 三、木曾線の工費及修繕費

木曾線が伊那線に比して工費及修繕費の僅少なることは予か前年の意見書に於て略之を盡せり故に今改めて茲に喋々するの要無きか如しと雖も然れども當時伊那線にありては神坂、中馬及三河の三線の外他に良線を見出す能はざりしを以て予は専ら以上三線に對して其意見を開陳せるに過ぎず然るに今や所謂清内路線の發見に依て以て其鋒を争はんとするに至れり是れ予か再び此題目を掲げて其優劣を判せんとする所以なりとす

政府技師の測量する所によれば所謂清内路線なるものは少くとも十二哩餘のアプト式を施さざるべからざるものなりと、此事にして果して信なりとせんか予は此一事を以てするも伊那線を排斥することの至當なるを認めずんはあらず何となればアプト式鐵道なるものが軍

事上の鐵道として其効を奏し得べきものなるや否やは現に疑問の渦中に在るものなればなり況んや中央幹線に之を用ゐんとするものなるに於てをや蓋し彼の碓氷鐵道の如きは全く萬已むを得ざるの結果とも云ふべきものにして若し他に適當なる線路の有りたらんには彼と雖も決してアプト式には據らざりしならんサレバ中央鐵道にしてアプト式に據らずんば以て敷設し能はずとならば即ち已む苟くも木曾線の如き良好なる線路の在る有るに當りて豈に何んぞ強てアプト式に據らざるを得ざるの伊那線を探るの要あらんや況んやアプト式なるものは工費に於ても亦巨額を費さざるべからざるものなるに於てをや

傳ふる者曰く伊那線にありては清内路の外更らに新神坂線なるものを發見せりと曰く此線路は五哩餘の隧道を設くるの外他に格別の難工無しと五哩餘の長隧道是れ果して鐵道敷設の目的を達し得べしと

爲すか斯の如きは會々以て世界の鐵道工事に向つての試験石たらんのみ我帝國の財政は果して斯の如き餘裕ありとするを得るか且つ夫れ新神坂線と稱するものは曩きにアプト式を以て大に排斥を被りたる清内路線に相接し等しく駒ヶ嶽惠那嶽等の峻嶺を貫くものにして工事の難は決して清内路に譲らざるなり之を要するに伊那線は實に多くの比較線を有すと雖も一として中央幹線たるの性格を具備するものあるを見ず或は十二哩のアプト式と云ひ或は五哩餘の隧道と云ひ幾多鐵道の尤も忌むべき難所を有するの外他に決して矜るに足るべきもの無きなり然かのみならず伊那線は概して木曾線に於けるか如く工事の材料に乏しきを以て從て工費の少額を望むべからず又破損の個所少なからざるを以て從て修繕の費用多し故に曰く木曾線は總ての伊那線に比して工費及修繕の費用少なしと

#### 四、木曾線の延長

木曾線の總ての伊那線に比して其延長の短きことは當路者の皆能く知る所なり然るに傳ふる者は曰く伊那線にして所謂新神坂線を探ると爲さんか木曾線に比して實に十哩餘を短縮すべしと、然れども是れ亦慮はざるの甚しきものと云ふべし

今假りに伊那線論者の言ふが如く能く十哩餘を短縮し得べしと爲すも開は三百萬圓以上の工費を増し五哩餘の長隧道を設けて然る後始めて望み得べきことにあらずやア、三百萬圓の増費五哩餘の長隧道

若しも他に之に代るべき良線路の無からんには尙ほ忍ぶべしと爲すも既に木曾線の如き最良線路の在るあるに當りて誰か斯る愚舉に出づべしと言はんや況んや木曾線にありては僅かに其工費を増すのみを以て大に其延長を減少し得べきものあるに於てをや抑も所謂木曾線なるものは諏訪郡より天龍の河岸に沿ひ上伊那を通

過して東筑摩に出て然る後始めて西筑摩に入るものなりと雖も若し諏訪より鹽尻峠を横斷し直に東筑摩に達せしむるとせんか僅かに十五萬圓の工費を増し一哩許の隧道を鹽尻峠に設くるに過ぎずして其延長實に九哩餘を減少し得べきものとす此線路たる當局者の夙に望を屬したる所にして昨夏之か實測を遂げたりしに頗る好成績を得たりと云へり是を伊那線に於ける三百萬圓の増費と五哩餘の長隧道とに比するあらは其得失果して如何ぞや必ずしも多言を俟て後知るべきにあらざるなり況んや此新線路と雖も固より軍事、經濟の上に於て更らに舊線路と庭徑あるに非らざるをや延長云々の理由を以て木曾線を害せんとするが如きは必竟是れ窮策に出でたる愚論のみ

#### 第三章 中央聯絡線

中央幹線の速かに敷設せざるべからざることとは今更らに言はず然れども予は尙ほ茲に幹線敷設の急速なるを望むと共に一層の必要ある

線路の存するを認むるものなり是れ即ち中央聯絡線にして詳言すれば

### イ、信越聯絡線

### ロ、東海聯絡線

の二線是なり其前者は信越線を長野若くは篠の井に分岐して松本に出で鹽尻若しくは洗馬に於て中央幹線に聯絡するものにして其後者は東海線を岩淵に分岐して富士川に沿ひ甲府に於て中央幹線に聯絡せんとするものあり

抑も駿甲、信越の地たる恰かも我本土の中腹にして南は東海々洋に向ひ北は日本内海を控へ軍事上に經濟上に兩ながら至重至大の關係を有するものあり而して此關係こそ實に中央幹線の目的をして完成せしむるの要素を爲せり

中央幹線に依て以て東西各地の軍事、經濟等諸種の目的を達し得べき

は予の贅言を俟たずして明かなることなりと雖も若しも此幹線を横貫する兩聯絡線の無からんには決して其本來の大目的を貫徹したりと云ふ能はざるべし蓋し一朝有事の時に際して能く鐵道の利便を藉り東西相呼び南北相應し以て軍事上の目的を達せしむると同時に他の一面には東海及北海各地の交通機關を發達せしめ以て海陸運の聯絡を計り經濟上の進歩をして著しからしめんことは實に中央幹線兩線の完成を俟て始めて望み得べきことなるのみ是か故に若し其一にして缺くるあらんか何を以てか能く其目的を完ふするを得んや是れ予が以上兩個の聯絡線をして中央幹線と同じく第一期工事線と爲し速かに之か敷設に着手せられんことを切望して已まざる所以なり

## 第四章 結論

以上章を追ひ項を重ねて論述せる所のものは實に予が中央鐵道に對する經濟的觀察なりとす其軍事的觀察の如きは寧ろ言ふに足らんや

蓋し予か前年の意見書は充分に盡すものあればなり之を要するに中央幹線たる木曾伊那の比較に就ては一の伊那線に採るべき無くして而かも木曾線の彼に勝ること遙かに數等の上にあると云へること及び幹線の目的をして充分に貫徹せしめんと欲せば宜しく中央聯絡線を第一期工事と爲し以て幹線と其竣工を等ふせしむべしと云ふにありとす

ア、國家爲政の大局に當れる閣臣諸公、國政參與の重望を擔へる議員諸公、想ふに諸公が正大なる公議心と敏活なる判斷力とは既に業に此等國家の大問題に向つて決定の裁斷を與ふるあらん復た焉んぞ予輩一商賈の絮説を要せんや  
然りと雖も今は我地引鐵の時代なり鹿を以て馬と爲し曲を以て直と誣ひ私利の爲に公益を忘れ一地方の爲に國家の大計を誤るの徒輩亦決して抄さを保せず是れ予が一片國家を思ふの赤誠は勃々として禁

する能はず自から其力を憚らず而かも其身の本分を失して敢て再び諸公を煩はすの己むを得ざるに至れる所以なりとす  
ア、諸公よ、庶幾くは深く慮ひを國家百年の遠きに致し精しく其利害の有る所を考覈して以て敷設其所を得せしめ敢て或は天下後世をして毫末も遺憾とする無からしめよ若し夫れ以上序述せる所にして幾分諸公の參考に資するあらは管に予の幸榮のみにあらざるなり

### 備考

鐵道廣軌、狹軌の得失に就ては世既に定論のあるあり苟くも國家財政の容るすあらんには其廣軌を採用せざるへからざる固と論するに足らず然るに既往に於ける我國の鐵道は未だ一として廣軌に據れるものあるを見ず是れ主として財政の容るすなきに歸因するなるへしと雖も豈に百年の遺憾にあらずや故に予は假令

工費の一時に嵩むありとするも中央鐵道の如きは宜しく今に於て廣軌の設計を斷行することの國家の長計たるを認めずんはあらすヨシ財政の上に於て一時に全線を廣軌とする能はずとするも少くとも隧道、橋梁の如き巨額の費用を要して而かも改修に困難を感じるものゝ如きは此際須らく廣軌道と爲し置かれんこと深く望んで已まざるなり當局の士夫れ亦茲に慮を致し玉へや

## 附 錄

### 中央鐵道に對する意見

コハ一昨二十五年第四議會の開會に際して世に公にしたるものなるか今參考として茲に載するものなり

#### 第一章 緒言

鐵道問題は今や端無くも全國の問題となり世論囂々恰かも群雀の囀々たるか如し私見是れ主張し私利是れ謀り毫も國家の經綸を有せず吾人をして轉た國家の前途を憂患せしむ眼苟くも國家の大觀を有し心苟くも國家の將來を想ふもの豈に黙々に看過し得んや

予は尾州熱田町の一民にして數代材木商を以て業と爲し常に専ら實業の事に奔走し毫も政治上に喙を容れしこと無し然るに這度の問題は實に國家永遠の問題にして若し其歩を誤るに於ては再ひ挽回す可からざるものなるにより聊か予が職業上從來の經歷により自から信する所を開陳して以て諸公の参考に資せんと欲するなり故に架空の暴説を吐て以て一時の幸を得んとするの徒輩と異なり實に國家を思ふの熱情よ



りして止むを得ざるに出てしのみ  
 數多き鐵道問題の中に就て尤も吾人の熟考を要す可きものは實に中央鐵道にありとす抑も鐵道は國家の一大事業にして敷設其當を失するに於ては直に其國の軍事經濟に影響を及ぼし竟に救ふ可からざるの大患を惹起すに至る既に是を敷設し了し然る後之を悔ゆ刀を以て人を殺し然る後之か蘇生を祈るか如し悔ゆるも何の詮かわらん昔に六蒲十菊の比のみあらざるなり是故に凡そ鐵道の問題を議せんと欲せば先國家なる眼鏡を懸け然る後能く内外の狀勢を考覈し地形に察し地質に考へ將來の事業物産を凝らし永遠なる前途を達觀して以て初めて斷案を下さざる可からず然り而して今の鐵道論者は概ね之に反し唯目前の利に心を傾け毫も國家の眼鏡を持する者無く甚しきは鐵道問題を以て地方問題と爲し鐵道事業を以て地方事業と爲し義金と稱して金圓を募集し運動と稱して上京し以て各議員を訪問す而して説くに地方の利害を以てして曰く若し之か敷設を見ずんば我地方は遂に廢滅に歸せん曰く若し之か敷設無きに於ては我地は遂に彼の地に勝つ能はずと嗚呼甚ひ哉國家の事業を以て地方占有の事業と爲すことや吾人を以て之を見れば實に蝸角の蠻觸のみ是寔に笑ふに絶えたる事なりと雖ども目今の情狀斯の如し予は固より實業家を以て自から任する

ものなるか故政治上に容喙を試むるか如きは亦固より自から望まざる所なりと雖ども此情狀を見此形勢を知り如何ぞ國家の爲め一言の辭無きを得んや予は絶對的に木曾線の中央幹線として適當なるを認むるものなり假令其工事は難しとするも假令其工費は嵩むとするも假令其物産は寡少なりとするも予は斷乎として木曾線の採らざる可からざることを認むるものなり況んや其工事は難きに非らず其工費は嵩むに非らず其物産は無限無量なるに於てをや乞ふ是より逐次其然る理由を説明す可し

## 第二章 軍事上に於ける中央線

### 一、木曾線は軍事上唯一の幹線なり

我國の海國あることは固より論するに足らず從て國防上海軍を以て主要の地位に置かざる可からざること亦固より論無しと雖ども然れども我國は長延龍蛇の形勢を有するか故に一朝事有るに際會せば一に陸軍の運轉敏活を恃むの外又決して策有るを見ず是を以て海軍を擴張すると同時に亦陸軍の運轉敏活を謀らざる可からざるなり然り而して其運轉をして敵軍の妨害を避け自由の活動を得せしめんと欲せば是非共

沿海鐵道の敷設を避け遠く之を全土の中脊に求めざる可からず而して其中脊に當るの地は實に中仙道に在りとす政府が往年中仙道鐵道を計畫したるは其意蓋し亦茲に有らざれば非らず然るに此設計は無慘にも碓氷の高嶺の爲に排斥せられ遂に東海鐵道を見るに至れり然れども東海鐵道の固と是れ軍事の目的を以て敷設したるに非らざるか故に早晚木曾を通する軍用鐵道の設計を見るならんと待ち居たりしに果せる哉正理の明光は何時しか陰雲を排除して茲に再び中央鐵道の氣運を挽回し遂に本年法律第四號を以て鐵道敷設法を公布するに至れり是予の國家の爲に大に喜ぶ所なりと雖ども然れども予は何故に木曾伊那兩線の比較を要するやを怪しむものなり木曾線果して敷設し能はずとならば則ち止む苟くも木曾線にして敷設し能ふ以上は何は兎もあれ此線を以て中央幹線と爲さる可からざるは明々白々一點の疑ふ可き積を有せず抑も中仙道の我國の脊髓にして尤も海濱に遠かり居るとは何人も能く了知する所ならん既に海濱に隔絶する以上は從て軍事鐵道として最好適の性格を有することも亦固より理の當然とする所なり既に然り軍事鐵道の幹線たる中央鐵道を敷設するに當り亦何ぞ木曾伊那の比較を要せんや唯此際に於て世人の疑問とある可きものは木曾線の嶮難なりと言へることなり然れども木曾線は世人の想像するか如く決して

嶮難の地に非らざるなり是一度中仙道を通行せしもの、能く知る所にして遙かに伊那線の難工なるに似ず今假りに木曾線を排斥して伊那線を探ると爲さんか神坂中馬三河の三線中果して何れを探らんとするか神坂中馬の如きは唯是れ言ふ可くして行ふ可からず止む無くんば夫れ三河線か然りと雖ども此線の如きは幸に峻岨なる嶮坂を經過し得ると爲すも實に海濱を去る僅かに五六里の短距離にして一旦緩急有るに於ては忽ち三河灣より進撃を被ふるは必定遂に軍事鐵道の目的を失するに至る嗚呼軍事鐵道を敷設せんと欲して而して軍事鐵道の目的を失す是れ豈に寧ろ敷かざるの勝れるに若かんや之を要するに予は斷々乎として木曾線の外一として中央鐵道の目的に合するもの無きを信するものなり

議者或は曰く木曾線は複線を敷設する能はずと是實に甚しき誤謬の説なり木曾の土如何に狭小なりとするも豈に一の複線を設くる能はざるの理わらんや能く事情に通ずるの人の蓋し其議論の幼稚なるに驚愕せん予を以て是を見れば複線の難きは木曾に非らずして却て伊那線に多しと言はざるを得ず複線の事亦何う呶々するを要せんや

議者或は曰く木曾線は積雪の爲めに汽車の運轉を杜絶すと是亦荒唐無稽の暴言たる

に過ぎず思ふに議者は木曾の事情には極めて疎きものなりといふ可し木曾の積雪は大雪と稱するも唯僅に一尺に過ぎず去れば汽車の運轉に差間を興ふるか如きは決して無きの事なりとす要するに議者の針小棒大の主義によりて以て事情に通せざるものを欺罔せんとするに過ぎず希くば能く實際の調査を遂げ以て世上に報告せよ

一、中央鐵道の西端は直に岐阜若くは木曾川に連續すへし中央鐵道の木曾線を探らざる可からざることは前既に之を概論したり然れども直に之を名古屋に連續せしむるに至りては聊か顧念を要す可きものあり抑も名古屋の地たる僅かに一里を隔て、熱田港に接するか故に軍事上より之を觀察すれは名古屋に連續するを停めて以て直に岐阜若くは木曾川驛に達するを可とす然りと雖ども名古屋は有名の大都にして熱田港あり第三師團あり經濟國防の上に於て忽にす可からざるの土なるか故に中央線の連續を計るは敢て不可とする所に非らず否寧ろ其必要を認むるものなり今鐵道敷設法によれば中央鐵道は東京より名古屋に至るの線路なりと稱し世論亦名古屋に至るの不可を唱ふる無きを以て見れば名古屋に連續するの必要は殆んど争ふ可からざるか如し然れども予は軍事鐵道としては直に岐阜若くは木曾川驛に連結するを以て完全なるものなることを斷信するなり之を要するに予は中

央鐵道の西端をは適宜の地に於て之を分岐し一は以て岐阜若くは木曾川に達し一は以て名古屋に連續せしめんことを欲するものなり是實に軍事鐵道の目的に於て國家經濟の上に於て充分に諸公の熟考を乞はんと欲す

### 第三章 經濟上に於ける中央線

#### 一、木曾線は伊那線に比して工費少し

苟くも軍事鐵道の目的を達せんと欲せば假令其工事は難しとするも亦假令其工費は多額を要すと爲すも之を決行するに於て何ぞ踟躕を爲す可けん況んや木曾線は世人の想像するか如く決して嶮難の線路に非ず從て僅少なる工費を以て敷設し得べきに於てをや元來木曾の線路たる木曾川沿岸に於ける一帶の通路なるを以て其地固より甚しき高低を見ず唯僅かに難所とも稱す可きものは一鳥居峠有るのみ然れども是とも唯一隧道を以て事足る可きものにして彼の伊那線に於るか如く幾多の隧道を要すること無し然り而して尤も多額の費用を要する橋梁の如きは唯僅かに二個の架設を以て充分なりとす之を彼の伊那線に於ける十五大橋梁の架設に比するに於ては實に些少の工費のみ然のみならず木曾は有名なる大山林を有し加ふるに石材に富める

を以て隧道橋梁及敷設に必要な枕木等に至る迄毫も之を他の地に仰かすして直に之を使用するを得べし彼の伊那線に於けるか如く一々之を他の地に仰くものに比すれば實に甚しき工費の減少を見ん是即ち木曾線は伊那線に比して工費少しと言ふ所以なり

### 一、木曾線は伊那線に比して修繕の費用少し

夫木曾の地質たる概して堅剛なる崑石を以て充さるゝか故に一度鐵道の開通を見るに於ては毫も破損の患無く實に萬代不易の事業なりとす而して此線の木曾川の水面を抜くこと二十尺乃至三十尺の高所にあるを以て假令洪水の氾濫たる有りとするも平然として居常に異なること無く依然として快走することを得へし然るに伊那線に在ては大難所たる三田切の外尙二十餘流の暴河を控ふるか故に線路橋梁に破損を生ずること常に絶ゆるの時有らざる可し然のみならず彼の枕木なるものは如何に善良なる材木を使用したりとするも七八ヶ年乃至十ヶ年の後に至れば必ず取替へざる可からざるものにして木曾にありては此事寔に容易なりと雖ども伊那にありては必ず之を他に仰かざる可からず其運搬の費用のみにても實に莫大なるものと云ふ可し是即ち木曾線の伊那線に比して修繕の費用少しと言ふ所以なり

### 一、木曾線は伊那線に比して貨物多し

軍事上の鐵道に於ては固より其鐵路の經過よりして起る可き利益の多寡を以て優劣を判す可からずと雖ども然れども軍事の稀あり經濟は常なり故に能ふ可くんば軍事好適の線路にして兼て經濟上の目的を充足するの線路を採擇するを以て最上乘と爲さざる可からず然り而して木曾線は實に此二者を併有せり彼の伊那線を主張する論者は上下伊那を以て直に西筑摩の一郡と比較せんと欲するか如しと雖ども決して其當を得たるものに非らず何となれば東西筑摩南北安曇の四郡なるものは世に之を松本平と稱するの地にして政治經濟其他總ての點に於て常に一團の働きを爲し居るものなればなり故に木曾線は安筑四郡は言ふに及ばず上伊那郡の背蕨たる辰野を掠むるの路線なるを以て上伊那亦決して木曾線の恩澤に浴せずと言ふを得ず伊那郡如何に物産に富むとするも之を安筑四郡に比するは殆んど顔色を失するなる可し況んや上伊那は木曾線に據て以て充分に其働を爲し得べきに於てをや

且夫木曾線にありては木曾山林と稱する無限無量の大産を有するあるに非らずや今試に同山林に依て來る可き經濟的現象木曾線に依て起る可き貨物の便益を説述して以て幼稚なる近眼者に一餐を侷めんと欲す

## イ、木曾山林より得る所の利益

木曾山林より年々伐採する所の材木は尺二尺角二間とす凡十萬本内外なりと雖も一旦鐵道の開通するに至れば更に幾萬本の増截を見るに至る可し然り而して此伐採せる所の材木は悉く之を木曾川に投入して熱田港に着せしむるを以て常則と爲す而して此川流しよする費用は一本に付五十錢乃至六十錢にして更に之を東京若くは大阪に運搬するに於ては殆んど一圓四五十錢を費さる可からず然るに鐵道の開通するに至れば木曾川より熱田に致すの費用を以て直に東京若くは大阪に運搬するを得可し今之を十萬本に積算すれば實に十萬圓の利益ありとす

然のみならず川流しは平均一割以上の流失木及傷木ありとす而して此一割なる算用は寔に内輪の算用にして年によりては大水の汎濫有るか爲め三割四割の流失を見るとあり亦既に熱田に着せし後と雖も風波の爲に空しく大海に葬らるゝもの其幾千なるを知らず材木商の危険なるは實に此流失木にありとす今若し鐵道の開通するに至れば此等無數の流材を救ふを得べく幾百年を経過せし天與の良材は悉く吾人の需用に應ずるを得可し今假りに一本の代價を五圓と爲し流失木の總價額を積算すれば實に五萬圓乃至十萬圓の巨額なりとす今鐵道よりて之を活用するに於ては彼れ此れ

十萬圓乃至二十萬圓の上に出づ可し豈驚く可きの利益にわらずや

議者或は曰く材木は川流しに限れりと是甚しき誤謬の論にして予は殆んど其理由を解するに苦しむ必竟是れ筏乗の其職を失はんを恐れ若くは材木商か直に東京大阪等に運搬せらるゝを恐るゝの言なる可し予は熱田に於て材木商を營業と爲すものあるか故に自身自己の利益より之を見れば寔に前説に賛成なりと雖ども鐵道の事業は固く是國家の事業に屬す自己一身の利益を以て如何ぞ國家の經濟を誤る可けんや加之雜木及末木等の如きは運搬の不便なるか爲め空しく腐朽に屬すると雖ども一旦鐵道の開通するに至れば此等不用の廢物は忽ち四方に紹介せられて此に必要な薪炭の用を爲す可し現に多治見及瀬戸に於ける陶器製造所諏訪郡に於ける製絲塲の如きは殆んど其薪炭を得るの途に窮するの状あり故に鐵道の開通するに至れば此等諸製造所に於ける便益ハ夫れ果して如何そや

## ロ、付知鹿子母に於ける材木

東濃中津川より飛州高山に達するの道路あり途に付知鹿子母と稱する市街あり而して其地廣袤諸多の物産に富み特に最良なる山林を有せり其伐採する所の材木は未だ充分の調査を遂げずと雖ども年々二三萬本の材木の必を伐截することなる可し今若

し木曾線の開通を見るに至れば此等諸山の材木は皆悉く鐵道に依て運搬するを得可し是亦木曾線に於ける一大利益に非らずや

#### ハ、多治見瀬戸に於ける陶器

東濃多治見及尾州瀬戸に於ける陶器の産額は實に莫大なるものにして既に先年兩地へのみを目的として私設鐵道を敷設せんと計畫せし事さへありき以て其産額の偉大なるを知るに足る可し而して前既に陳ぶるが如く兩地の陶器製造に費す所の薪炭の實に巨額を要することなるに今や其薪炭を需むるの途に窮し釜數減少の計畫さへありと云ふ今夫れ鐵道の開通を見るに至れば陶器は之に依て以て運搬するを得べく薪炭は之に依て以て供給を仰くを得可し是亦木曾線に於ける一大利益にあらざして何ぞ

之を要するに木曾線の經濟的現象を以て伊那線の利益を達觀すれば唯憫情を催ふす有るのみ此に於て乎予は比較線なる語は抑も何等の理由によりて使用するに至りしやを怪しむ嗚呼伊那線は氣の毒乍ら竟に木曾線に對して閉口低頭せざるを得ざる可き乎

### 第四章 結論

章を追ひ項を別ち論述以て此に至れば木曾線は實に中央幹線として充分の性格を有するものと言ふ可きなり帝國軍事の上よりするも將亦國家經濟の上よりするも又他に決して比較す可き線路を見出す能はざるなり且夫れ北越線を分岐して篠の井より松本を経て是に連絡す可きの設計あり松本より飛州高山を経て富山に達するの計畫あるに非らずや此に於て乎木曾線の益々中央幹線として唯一の性格を有することを認む可きなり

前既に陳ぶるか如く鐵道は國家百年の事業なるか故に決して輕々速斷を下す可きに非らず特に中央鐵道の如きは尤も然りと爲す若夫れ設計一步を誤るあらん乎實に千載の遺憾にして決して救ふ可きの方策を有せず東海鐵道は蓋し能く其好適例を示せるものなり然りと雖ども人類の弱點は往々にして此等國家の問題を以て一小地方的の問題と爲し以て永遠の大計を誤るに至る

嗚呼國民代表者たる代議士諸公國家施政の要職を有する閣臣諸公希くは國家の眼光を以て能く此問題を討究し永遠無窮の前途に思を凝らし以て帝國將來の福利を圖れ敢て國家の爲に諸公の參考に供す

嗚呼予か此言を爲す所以のもの寔に國家の前途に於て默し難きもの有ればなり諸公

幸に是を諒せよ

9/35

明治二十七年四月十七日印刷

(非賣品)

明治二十七年四月二十日發行

東京府北豊島郡日暮里村元  
谷中本村七拾七番地寄留

編輯兼發行者

胡 桃 濱 吉

東京市京橋區築地貳丁目拾七番地

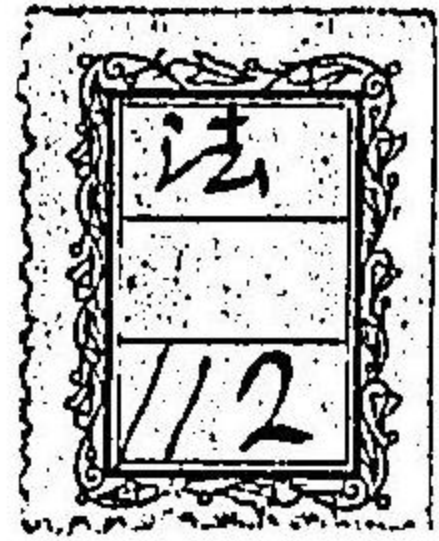
印刷者

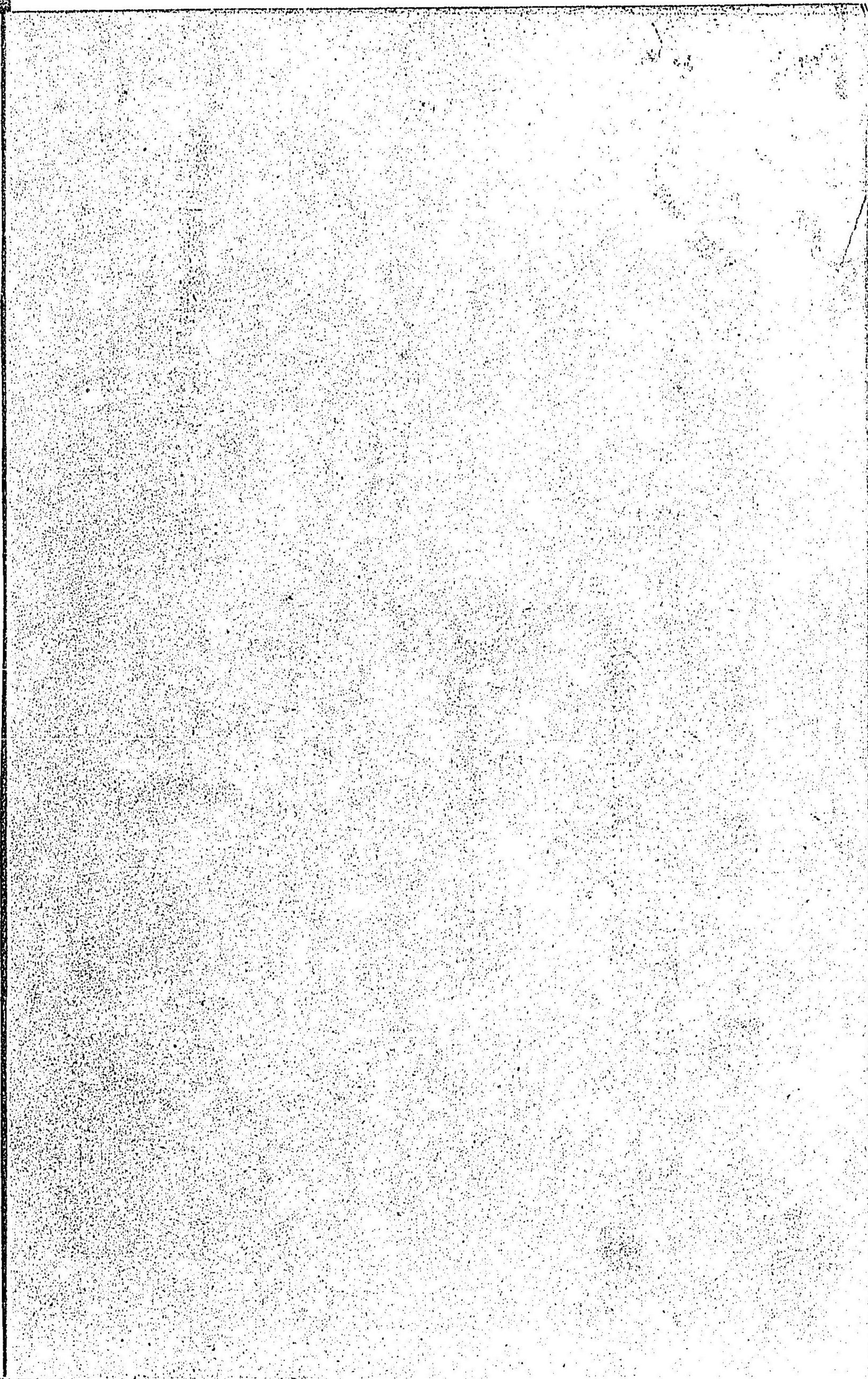
曲 田 成

東京市京橋區築地貳丁目拾七番地

印刷所

株式會社 東京築地活版製造所







法  
112

THE UNIVERSITY OF CHICAGO  
LIBRARY  
540 EAST 57TH STREET  
CHICAGO, ILL. 60637  
U.S.A.